山形市配偶者暴力防止講演会

オペラ歌手 中島（なかじま） 啓江（けいこ）さん「生きる力」より

「ありがとう」が好き

平成23年11月26日、山形市総合福祉センターにおいて、オペラ歌手の中島啓江さんを講師にお迎えし、山形市配偶者暴力防止講演会が開催されました。

啓江の「江」は揚子江の江

「誰も『江』の字を『こ』とは読んでくれなかった。でもこの名前を大切に思ったので、変えようとは思わなかった。」と中島さん。

その名前には母親が「アジア人のひとりとして、中国大陸の揚子江の流れのように、何事も広い心で受け止め、みんなを抱きしめてあげられる人になって欲しい。」との願いが込められている。

母親のタミコさんは、十七歳で従軍看護婦の見習い看護婦として旅順大連に渡り、けがをした兵隊さんの治療にあたる。若かったので、買出し部隊の一員として現地の農家に出向き、言葉が分からないながらも、身振り手振りで食材を分けてもらった。そのとき、「みんな同じ人間よ」と広い心で接してくれた中国人との出会いが忘れられない出来事に。中国人への「感謝（かんしゃ）」の気持ちは後々、啓江さんが二十歳になるまでの間、誕生日には必ず話してくれたという。だから「ありがとう」が好きですと、言葉を強くする。

故郷 桜島山様に誓った胸の内

父親のわがままな生き方のため、私は三歳六ヶ月にして、故郷、鹿児島県の佐多岬の生家を出ることになったの。

「啓江、よく見といてくりぁなぁ。桜島山にあいがとう（ありがとう）と言わんならんなぁ。二度と帰って来れんのだから」と母。私はこましゃくれていたのね、ちょっと一言叫んでしまった。「桜島山様よ、よく聞いとけ。必ず母ちゃんを連れて帰る。母ちゃんを二度と泣かせない。母ちゃんの涙はぜったい見ない」と。

その胸の中に刻まれていたのは、優しい母に対する厳しすぎた父の態度だった。その父が転職のために選んだ大阪・埼玉での生活。そこで待ち受けていたのは・・・。

〝社宅の子〟はいじめられ、育まれ

父親が大阪から東京の会社に就職することになって、埼玉の社宅暮らしがはじまるのだが、楽しい社宅暮らしとは裏腹に、クラスメイトから受け続けたいじめの世界。

ジャンケンポン・・・最初はグー・・・と言うからグーを出したらみんなはパーを出す。

それをとがめると「遊んであげないよ」小学三年生ともなると、感受性が芽生えてきて、「なんか・・・つらいなぁ」と落ち込む日々。

でもね、社宅の子っていじめられても、そこでの生活はとっても楽しかったの。日本各地から来ているので、言葉が通じなくとも笑顔で過ごせたし、色んなことを教えてもらった。良き時代でした。

社宅生活を楽しんでいたから、何を言われても平気だったからニコニコしていたの。それが気に入らなかったのかしら・・・。

女の子のいじめがひどかった。何時も、私を見ると殴ってくる子がいたの。殴りやすかったのかなぁ。

六年生の一学期まで続いたのよ。

音楽の授業で、普通に歌っていたつもりだけど、先生に「うるさいっ」って怒鳴られたの。優しく歌えば良かったんだなぁと思ったんだけど、子どもたちは違っていたの。先生の心ない言葉に右ならえよ。私が何か話そうとすると耳を塞いだの。それが、半年も続いたのよ。失語症になりかけたの・・・。男の子のいじめは、蹴っ飛ばしたりズックを捨てたりノートを破ったりだったけど、女の子のいじめは心に傷が残ったの。

仲良しだった女の子に誕生パーティーに呼ばれたので行ってみたら、いつも殴ってくる子が玄関先で仁王立ちになって、掃除するから、準備するから入っちゃだめって。じゃ手伝わせてって言うと、あんたは初めて呼ばれるのだから勝手に上がらせないって。つらかったね。

PROFILE

なかじま けいこ

鹿児島県生まれ。昭和音楽短期大学ディプロマ・オペラ専攻科修了。藤原歌劇団出身。NPO法人スマイル合唱団理事。主な著書に「今日も元気だ、オペラが見たい」（メトロポリタン）など。

冷えてきたのでトイレを借りようとして隙間をのぞいたら、既にご馳走は無く、ゲーム大会をしていました。あれほど胸が痛かったのはなかった。走って家に帰りました。家族はパーティーに参加して帰ったものと思っていたみたい。私は押入れの中で泣いていたの。そしたら、ほとぼりが冷める頃、母が、散歩に行こうって誘ってくれたの。

母と手をつないで初めて「ゆりかごの歌」を歌ったの。それから色んな童謡を歌ったわ。母は、私がいじめられていること知っていたのかもしれない。

仕返しをしたい…が

父は、慣れない東京での会社勤めでつらいことがあったんでしょう。アルコール依存症になり、母を蹴り、髪の毛を引っ張るなど、その気持ちを全部家族にぶつけてきました。家庭内暴力・DVです。

父のわがままで突然引越しをすることに。でも、もう、いじめに遭うことはないのだと喜ぶ二面、いじめた子に仕返しをしたい気持ちにかられました。でも、母の言葉は意外だった。

「みんなとのお別れの時、一人ひとりに『ありがとう』を言いなさい。笑顔でね。そしたら二度と後悔しない。いいことがあるはず。」と。最後のお別れの日に、一人ひとりに「ありがとう」って言うと、不思議ね、言葉が返ってきたの。「何で言わなかったの」、「手紙書くね」、「また会おうね」って、まるで魔法がかかったみたい。

「ありがとう」って二十人の人に言っていると心地よくって、心の底から笑顔になっていました。痛かったり苦しかったりした啓江の顔じゃないのよ。

あのいじめっ子が、何と言ったと思います？「ごめんなさい。忘れないよ」って。

素敵な大人になったんだと今でも信じています。出会ったことがうれしくなりました。「ありがとう」は魔法の言葉でした。

歌手を目指したきっかけ

転校先の先生、音楽が不得手だったの。指揮棒の代わりに使ったのが、算数の授業で使う巨大コンパス。先がとんがっているから怖かったの。でも、先生、一生懸命振っているのよ。楽しそうに振るの。みんな、笑いながら歌うの。音程なんてどうでもいいのよ。

「おー牧場はみどり・・・」って歌うと牧場のみどりがとっても素敵に思えるの・・・。

音楽の時間、ピアノ伴奏をしていた私は伴奏を忘れて思わず歌っちゃったの。

そしたら「あんた、声大っきいね。何で今まで歌わなかったんだ。そんな大きな声だったら歌えばいいじゃないか。いいんだよ。歌いなさい。楽しいでしょう。」って。そんな先生に出会ったことが、私が歌手になるきっかけでした。

中島さんの貴重なお話をお伺いして、会場の割れるような拍手の中、退場される中島さんに「ありがとうございました」と感謝の言葉。

「ありがとう」と握手をされながら答えられた中島さんに、更に大きな拍手が沸き起こりました。

講演会アンケートより

○中島さんの体験からの言葉で語っていただき十分伝わりました。

○プラスの方向に持っていく心の持ち方を教わり、とっても気持ちがよかった。是非実行します。

○どんな言葉も考え方次第。他人の気持ちも考えること。簡単に出来ることを改めて気づきました。

○心に残る「ありがとう」の言葉をありがとうございました。

編集協力員　今野　久子